

四国溶材株式会社：品質と革新の融合

四国溶材は75年にわたり、大規模プロジェクトに高品質の溶接ソリューションを提供してきた。

物体の強度は、接続部の強度に比例する。何千年の間、人類は金属を溶接することによって強度を改善してきた。産業的側面を見ると、溶接はグローバルなサプライチェーンを維持するために不可欠な存在。特に造船業ではなくてはならないものだ。日本の四国溶材株式会社は、革新的なソリューションをもってセクターを牽引している企業のひとつである。

1947年に設立された同社は、造船や建設などの大規模プロジェクトに注力し、最先端の溶接ソリューションを顧客に提供する。先進的プロダクトの例としては、全姿勢溶接用フラックス入りワイヤ「TAS-10」が真っ先に挙げ



四国溶材株式会社
代表取締役社長
村上 裕一

The Welding Solutions
Sweco
Shikoku Welding Electrode Co., Ltd.
www.sweco.co.jp/en

る。TAS-10は、ルチルを主成分とする低水素系フラックスを使用し、使いやすさと広い電流範囲を実現したもので、船舶や橋梁に広く適用され、溶接時に問題となるスパッタリングにも対応している。「お客さまに喜んでいただけるよう、サービスを充実させています。弊社スタッフが実際に造船所へ出向き、作業員の方に製品の正しい使い方を指導することもあります」と話すのは同社の村上 裕一社長。

同社は、造船の街としても知られる今治を拠点にしながらも、ベトナムに工場を建設し、販売パートナーの協力を得て東南アジアへの進出を果たしている。ベトナム

は今、急速に工業化が進み、未来に向けた造船業復活の狼煙を上げているところだ。同社が掲げる「発展途上国でソリューションを提供し、製品で社会に貢献する」という大きな目標に完全に合致する国であると言えるだろう。

溶接は歴史的に男性中心の産業ではあるが、高齢化が進む日本社会という背景のなか、同社は新たな試みも始めている。「女性社員が働きやすく、効率的に仕事ができる環境とは何か、女性社員を増やすための会議を開くこともあります」と村上氏は話す。

こうした安心できる職場環境への取り組みは、四国溶材が商社として溶接用マスクなどのPPEを仕入れる際にも生かされている。革新性、品質、多様性を融合させながら、今後も積極的な事業展開を目指し、進化を続けていこう。



本社



各種溶接材



巻き戻し工程